



横浜市立一本松小学校

5月号

# 学校だより

令和4年4月28日

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

## 「リフレーミング」

校長 高桑 透

先日の授業参観・懇談会には多くの保護者の皆様にご参加いただきありがとうございました。授業参観は昨年度に引き続き分散型とし、約2年半ぶりの懇談会はリモートで行いました。感染症対策をしながらではありますが、今年度はさらに教育活動の内容を見直し、宿泊体験学習や校外学習についても実施の方向で計画をしています。また授業参観など保護者の皆様に子どもたちの様子を観ていただく機会についても、工夫をしながら行う予定となっています。少しずつではありますが、本来の学校の姿に近づけていきます。

さて、授業参観の子どもたちはどのように見えていたのでしょうか。たくさん保護者の方の前で、張り切って授業に取り組んでいる姿がたくさん見られたのではないのでしょうか。きっと子どもたちは、保護者の方に観ていただき、褒めてもらいたいと思っていたのだと思います。褒めることは、子どもたちのやる気を引き出す一番の特効薬です。

「授業において、子どもたちが積極的に取り組んでいる姿は。」と投げかけられたら、どのような姿を思い浮かべるでしょうか。様々な姿をイメージできます。それらの姿の中に、積極的に発言している姿もちろんあると思います。自分で考えたこと、見いだしたことがあるからこそ、伝えたい、他の人の考えを聞きたいという気持ちになります。一方で途中まで考えることができたけど、まだ考え続けている、自分の考えが本当に正しいのか自分に問うている姿も、思考途中ではありますが、やはり積極的に取り組んでいる姿といえます。「授業に積極的に取り組んでいる姿は必ずしも活発に発言している姿であるとは限らない。」ということです。発言はなくても、友達の考えにうなずいたり、つぶやいたり、表情が変化したりしているなど、他の姿として表れている子どもも少なくありません。ノートに自分の考えや疑問、思考の過程を表現している子どももいます。その表現方法も言葉、数、図、式、表、グラフ、記号などがあって実に多様です。

子どもの姿を見るときには、その見方によって受け取り方も変わります。ある書籍に、物事を見る枠組みを変えて違う枠組みで見ると捉える「リフレーミング」について紹介されていました。「がんこな」は「意志が固い、信念がある、一貫性がある」、「1人になりがち」は、「自立した・独立心がある」、「いいかげんな」は「こだわらない、おおらか」など、なるほどという言葉がまだまだあります。

子どもの自信や意欲を引き出すためには、子どもの真の姿をとらえ、その姿を認め、褒めることが大切であると考えます。「まだ、できない」は、「今は、時間をかけてじっくり取り組んでいる」と見方を変えることができます。今までの見方ではなく、視点を変えて、「リフレーミング」することで、子どもに対しての見方も変わり、褒めることが増えていきます。

「リフレーミング」、日常生活の中でも役立つ考え方だと思います。ちょっと立ち止まって、見方を変えてみることを、おすすめします。